

こんにちは、お世話様です。

こんにちは、お世話様です。すっかり秋になり、朝夕、寒い日もあります。白いものも落ちて来るのは、時間の問題でしょうか。

先日、このお手紙を配りにお邪魔した時、あるお客様に「毎月、楽しみなんですよ。」とおっしゃって頂いて、とても嬉しい気持ちになりました。「ああ、続けてて、良かった。」と、がぜんやる気が湧いてきました。いつもつたない文章で申し訳ありませんが、そういうお声がたくさん頂ける様に精進して参りたいと思います。

尚、この前起きた、新潟県中越地震で亡くなられた方の御冥福をお祈り申し上げます。

さて、7回目になりました。いろいろな、わからない建築用語や情報をお送りします。

今回は新潟で地震が起きた事もあり、建物の「耐震」について、お話したいと思います。

まず、本題に入る前に何故、家がこんなにも壊れてしまったのか、私なりに原因を考えてみました。2つ原因が考えられると思います。1つは、新潟という土地柄です。そもそも新潟は地盤の弱い土地でした。住宅でも基礎の下を杭等で地盤改良しているケースが多いそうです。しかも、台風の影響で、地盤が緩んでいた事と、断層が下を通っていた事も、今回のケースでは更なる拍車を掛けたのでしょう。

2つ目に、建物が昭和56年の新耐震基準以前の建物が全壊というケースが多いと思われまます。お年寄りだけとか、山間部は特に多かったと思われまます。

昔の家は、重い屋根、重い土壁の外壁で持たせ、筋違い(すじかい)等の補強がされてないのが、ほとんどです。平成7年の阪神淡路大震災も、同じでした。さも、ハウスメーカーの家が丈夫で残った様に報道されましたが、在来工法の家が全壊したのではなく、先程の昭和56年以前の建物だったのです。

我々、建築業界の人間も、阪神淡路大震災以降、あらゆる面で、建築物を見直しました。家だけでなく、使用される部材も見直しました。例えば、システムキッチンの吊戸棚ですが、地震が来ると、まず間違いなく扉が開いて、中の荷物が飛び出します。それで震災以降、吊戸棚には「耐震ロック」というフックが付くようになりました。方式はいろいろありますが、多いのは、中にパチンコ玉位の玉が入ってて、揺れると動いて、ロックが架かる方式です。

今回の「耐震」は住宅でも重要ですので、来月に渡って2回お送りします。

次回は、住宅の基礎・構造の面の「耐震」をお話します。

速報！！ M-ONE HOME見学会開催！！

皆様、お待たせしました！！M-ONE HOMEの1棟目が着工となりました。つきましては、また改めて御連絡しますが、お施主様の御好意により、12月初旬に現場見学会をおこなう事になりました。今回は上棟後の構造見学会を行います。基礎・柱・梁・断熱材の丈夫さを是非、見て頂きたいと思います。やはり、見て頂くのが1番です！また改めて御連絡します。

まずは御一報まで。

